43

13
1961
43

水古伝 二

天剛垂楊枒

附り氷る剱の一振は春あるべき千金乃價

作者 山東京傳

并に垂髪柳の一株は鬼依わざむく方人の力

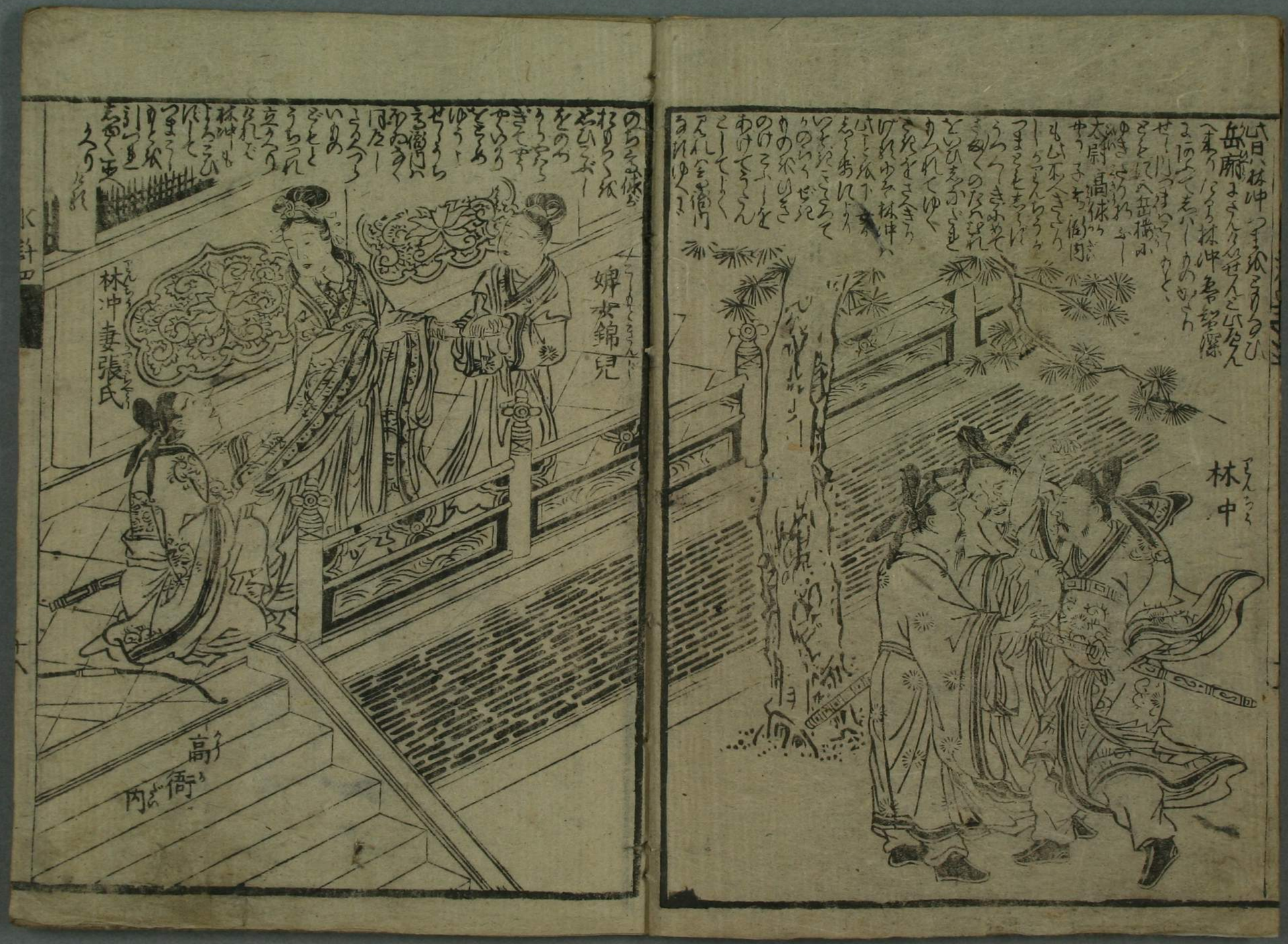
上

板元通油町 たるや

遠 18

1961
43

水滸四
十七
教頭林冲
魯智深


林中
婢女錦兒
林中妻張氏
高内衙

富安
陸奥候
陸謙

高内侍

高衙内
林冲妻
林冲
婢女錦兒

大尉高俅
陸謙
富安

天剛乖楊柳

作者 山東京傳

附り
色なる表の曼珠い操正しき
意豹下駄

邪む冠れ横級も心猿智恵
并ニ

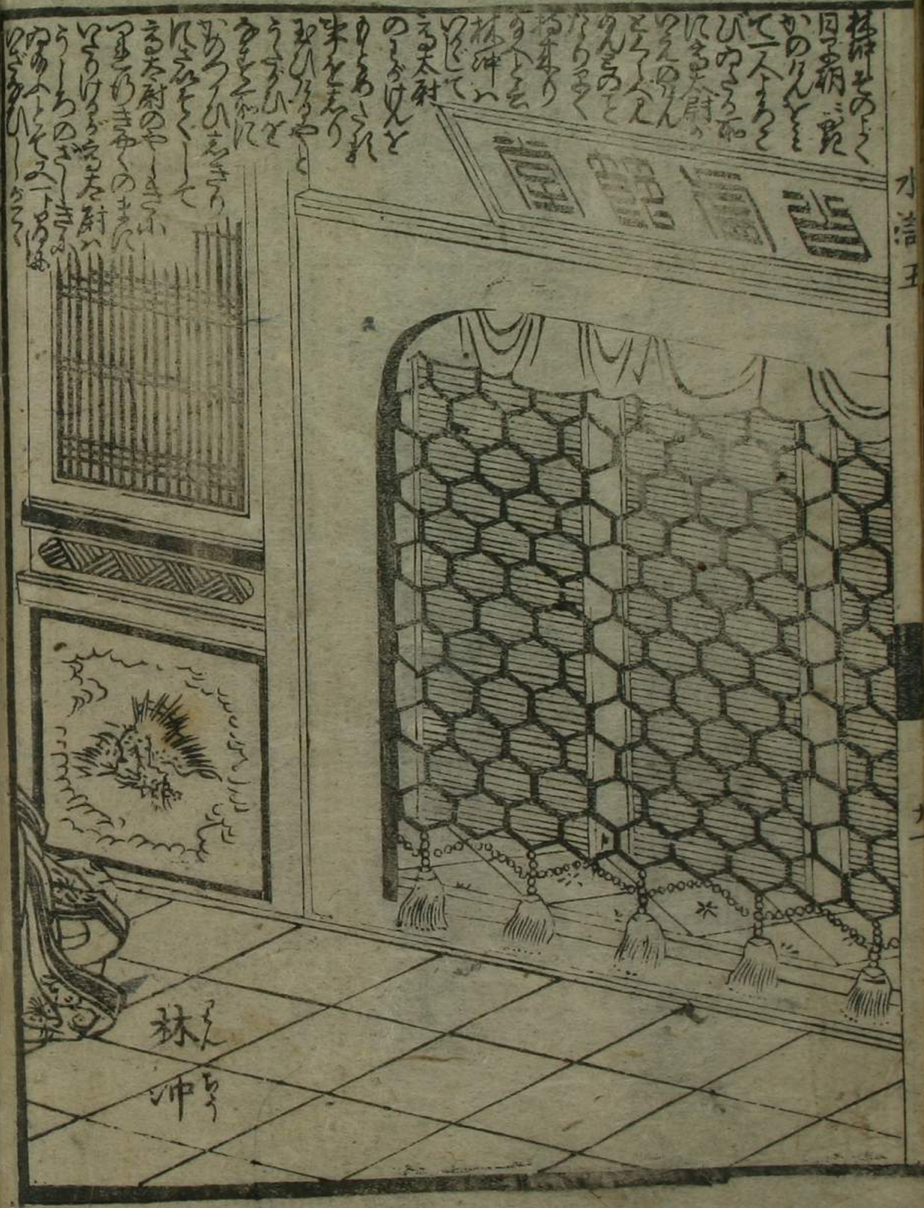
中

板元 通油町 たるや

魯智深
林冲

急ぎの君深林仲女人
湯ぶのこわらして所へ
出ゆきやしりくらかふ
人の男をふ一ぞりの
紙ぞりつてひろうごとふ
いひかるひつきさらぶひ
ひくくんとろりめ
ぶーりーとろとの
のぐぐうんめと
たんをくすか
ることこうなり
林仲めえんでそ
りんとりてこうに
つふもきこえめい
りんりり林仲へ
ようて武器ぶろのひ
ゆきうにひりんとろい
んとこうつに陽一ふ
ぐりんかのえんきうろ
紀ぶとりるとかの
ちとこ然つれて
ぐうんこ一ふとと
わこてりんとりるい
りにんこのわきうこん
ようてびへ
えりりめ

魯智深
林仲


林冲

高太尉
林冲

太尉の使ハ行のち
のまゝに林冲とそ
うそつくふおとゝ
をあらためたち風封
府勝府尹の左
しきへ引ゝ
そのつゝ
ゝ
ゝ
てゝ
ゝ
林冲
ゝ
ゝ
ゝ

下官
張教頭
酒樓
林冲
林冲妻張氏
錦兒

下官
林冲
下官

通人初

作者 山東京傳

付り
深川情の教頭が身の金もうけ
錦棒の術

兎粉の盟

施仁德の實人が名を関へ
并ニ

下

板元通油町 ほそらや

魯智深
林冲
董超
薛霸

薛霸
林冲
董超

柴大官人

林沖
洪教頭

小旋風柴進
又柴大官人
薛霸
董超

林冲

差撥

管営

林沖さまにこのはなしをある日
天王堂へ参詣のそのかへりに
ひろ風呂屋へ立ちよりこれ
ばかりのことをとくとくの
方ばかりこれをとくとくの
ものがたりをしてこれを
それぞれ酒屋のかりの事
小二とかりのかりこと
なんとうこと丹系こと林沖
千万のあんをうけ一命
をたすけるしるしのあり
林沖をこそひざのうえ
つまりなんさまあ
の天あんのうえひりゃん紙
なすりそとよりけ
ものこと聞をへんり
たりくしはふきさ
アそこまで教しの酒屋
のひとをあつたのち
王教ふうの松のいそ
今はいけしてうの坂
を直ぐ宿の所のきん
てんひーきそこまい
といとをとり
いーれそのあまさま
のまを金ぶたをけて
ひとれ
ものげなりこ
軍こまの所の林沖へ
まりもそのを

妻

李小二

林沖さまにこのはなしをある日
天王堂へ参詣のそのかへりに
すむとこまそくーく
さりされば事ふこと
うとのまりこのこと事ふ事
あのそうきとそ
をこそうあとこら
そのあつりつまま成

ゆりく
ふうあ
酒さかなを
ほこれて林沖
なぐさめられた
あくよろこび
大にたのしく成
かーてそや
れぐふ
ふうり
いこまぐひしそ
ふたび天王堂へ
かへりけり

林沖

林
小李

大清會典 卷六